

ZANDEN Model 120 の活用(22)  
—Model 120 設定条件の試聴(22)—

1. 始めに

前報(21)に引き続き、アナログ盤を選定して Model 120 の設定条件を替えて試聴していきます。今回は、ハイドンの作品の盤を選定しました。

2. Model 120 設定条件の試聴方法

カートリッジは、My Sonic Signature Gold で、接続に関しては、ZANDEN Model 120 の導入(2)と同様、下記のとおりとします。

LP-12→(フォノケーブル)→AACU-1000→Model120(アンバランス入力端子→アンバランス出力端子)→(アンバランス/バランス変換ケーブル)→P&G フェーダー(バランス入力端子→バランス出力端子) →BACU-2000→300B シングルアンプ(バランス入力端子)

なお、クロスチェックの意味で、カートリッジは、ZYX R100-EX とし、接続に関しては、Garrad401 の再構成(10)と同様、下記も使用します。

Garrad401→(フォノケーブル)→Stage1030(アンバランス入力端子→アンバランス出力端子)→AACU-1000→(RCA ケーブル)→Brooklyn DAC+(アンバランス入力端子→バランス出力端子)→BACU-2000→(バランスケーブル)→P&フェーダー(バランス入力端子→バランス出力端子)→BACU-2000→(バランスケーブル)→300B シングルアンプ

音源としては、下記のハイドンの作品の盤を選んで聴いていきます。

EMI Angel (東芝音工) EAC-9003

ヨーゼフ・ハイドン オラトリオ四季

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリンフィル

CBS SONY28AC 1635

ヨーゼフ・ハイドン ロンドントリオ ディベルティメント

ジャン・ピエール・ランパル(FI)

アイザック・スターン(Vn)

ムスティスラフ・ロストロポーヴィッチ(Vc)

CBS SONY28AC 1672

ヨーゼフ・ハイドン ヴァイオリン協奏曲 1 番

ヴァイオリン協奏曲 5 番

チャーラン・リン(Vn)

## ネヴィル・マリナー指揮ミネソタ交響楽団

### 3. Model 120 設定条件の試聴結果

試聴は、RIAA の正相からスタートして、種々切り替えて聴いていき、良さそうなところで、第 4 時定数も決めていきます。

EMI Angel (東芝音工) EAC-9003 のハイドンのオラトリオ四季は、RIAA の正相からスタートし、音が散漫なのですぐに逆相にしてイコライザーカーブを切り替えていき、EMI でくっきりとした音になりましたが、弦がきつい感じがしましたので、第 4 時定数を High から、Mid、Low と切り替えていき、ソフトな感じになりました。

CBS SONY 28AC 1635 のロンドントリオとディベルティメントは、RIAA の正相からスタートし、CBS SONY の過去のトレンドから、Columbia の逆相にしてみましたところ、これでしっくりします。第 4 時定数は High で良さそうです。Garrad401 の ZYX R100-EX でも聴いてみましたが、位相反転すると、三つのパートの音の焦点があってきます。

CBS SONY 28AC 1672 のヴァイオリン協奏曲 1 番と 5 番は、CBS SONY の過去のトレンドから、Columbia の逆相にしてみましたところ、これでしっくりします。第 4 時定数は High でも良いのですが、もう少し弦に柔らかなところが欲しいので Mid にしました。

### 4. まとめ。

ハイドンの作品 4 盤を聴きましたが、条件を調整すると、大編成のものは、そのスケール感が、アンサンブルはハイドンらしい明快な音楽の表情が楽しめます。

以上